

WDM in Tsu



WDMiT Webサイト



<https://www.wdmit.com>

2023



WINTER DENTAL MEETING IN TSU

ウインターデンタルミーティング in 津

主催：Winter Dental Meeting in 津 実行委員会

WDMiT事務局 三重大学医学部附属病院歯科口腔外科

Mail: info@wdmit.com TEL: 059-232-1111 (内線5635)

2023
12/10 日

時間：9:50～（9:30開場）

会場：アストプラザ4F

ホテルグリーンパーク津6F
（ランチョンセミナー）

第4回

Winter Dental Meeting in Tsu ウィンターデンタルミーティング in 津

— 開催のご挨拶 —

コロナ禍の中2020年にスタートしたWinter Dental Meeting in Tsuも第4回を迎える運びとなりました。今回ご参加の皆様、また演題に応募いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。

さて、今回の特別講演、教育講演を見ますと、「2040年問題」が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。「2040年問題」の前には「2025年問題」がありましたが、2023年にもなると話題には上らなくなりました。ご存じのように「2025年問題」とは、1947年～1949年に生まれたいわゆる「団塊の世代」800万人全員が75歳以上、つまり後期高齢者となり、超高齢化社会が訪れることで生じるさまざまな課題を指します。その後も高齢者の増加は緩やかになるものの2040年頃まで続き、1971年～1974年に生まれた団塊ジュニア世代が65歳以上となります。既に減少に転じている生産年齢人口が2025年以降さらに減少が加速します。つまり「2040年問題」とは、高齢者の急増から現役世代の急減への局面の変化です。

特別講演では、「私たちにとっての少子化問題～三十年後の社会はどうか?～」と題して、株式会社百五総合研究所シニアアドバイザー・主席研究員の西城 昭二氏に、少子化時代の三重県や日本の姿についてお話いただきます。

また、愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科相原喜子准教授には、「歯科衛生士と摂食嚥下障害～特に摂食嚥下訓練について～」と題した教育講演をお願いいたしました。相原先生は言語聴覚士の資格もお持ちで、高齢化社会において歯科衛生士がどのように摂食嚥下障害に取り組んでいくのか、教育現場の状況も含めて貴重なお話が聞けることと、楽しみにしております。

新型コロナも今年の5月には5類に移行し、対面形式での学会や研修会も増えてきました。対面形式の良さは、オンラインで皆の前では聞きにくいことを聞けたり、普段は顔を合わす機会の少ない方と情報交換ができることにあると考えられます。同じ三重県に住む歯科関係者として、是非Winter Dental Meeting in Tsuをご活用いただきたいと思います。

会場には展示ブースや休憩所もご用意いたしました。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ウィンターデンタルミーティング in 津
実行委員会 委員

第4回大会長 福森 哲也

特別講演【13:50～14:50】アストプラザ4F アストホール

「私たちにとっての少子化問題 ～三十年後の社会はどうか?～」

株式会社百五総合研究所
シニアアドバイザー 主席研究員

西城 昭二 氏

1981年三重県に入庁。2008年から通算5年間、健康福祉部(当時)で、保健医療及び子ども福祉分野の管理業務等に携わり、2014年度、子ども・家庭局長として少子化対策を所管。伊勢志摩サミット推進局長、戦略企画部長を経て2019年3月定年退職。京都大学公共政策大学院を修了後、2021年4月から現職。



講演内容 -----

「一年間に生まれる子どもの数が最少を更新」—コロナ禍を経て、今また「少子化」が日本の大きな問題としてクローズアップされています。少子化の現状はどうなっていて、何が問題なのでしょう。もう30年余りにわたって、国や県・市町村で対策に取り組んできたにもかかわらず、いっこうに改善の兆しが見えないのはなぜでしょうか。結婚や子育てなど、これから家族を形成しようという若い人たちにとってはもちろんのこと、働き方改革の要請と相まって、少子化は人材不足といった形で地域医療や歯科医療の在り方にも影響を及ぼしつつあります。

これまでの経緯を振り返りながら、少子化問題を通じて、将来の三重県＝地域社会や日本の姿を、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

教育講演(ランチョンセミナー)【12:20～13:20】ホテルグリーンパーク津 6F

「歯科衛生士と摂食嚥下障害 ～特に摂食嚥下訓練について～」

愛知学院大学短期大学部
歯科衛生学科 准教授

相原 喜子 先生

歯科衛生士、言語聴覚士、博士(歯学)
歯科衛生士として歯科医院勤務を経て、言語聴覚士資格取得後、国立長寿医療研究センターで言語リハビリテーション、認知症研究に従事。名古屋医専言語聴覚学科専任教員、愛知学院大学歯学部附属病院 言語・口腔機能発達治療外来勤務を経て、短期大学部歯科衛生学科教員。2021年2月大府市と名東区に「ことばとお口の教室」開設。



講演内容 -----

1994年に医科、歯科同時に摂食機能療法が保険医療に導入され、歯科衛生士は、歯科医師の指示のもと、多職種協働を旨とする摂食嚥下リハビリテーション(摂食機能療法)において、「実施者」になりました。当然ながら、歯科衛生士にもチーム医療の一員として、摂食嚥下リハビリテーションに関わる専門性を一層高めること、また歯科衛生士の専門性を活かした問題解決能力が求められています。

そこで、今回、摂食嚥下障害と摂食嚥下訓練について概説し、摂食嚥下リハビリテーションに関する歯科衛生士教育についてお話ししたいと思います。摂食嚥下リハビリテーションにおいて歯科衛生士が担っている役割は何でしょうか?皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

■ 開会

▶9:50～ 開会の挨拶(福森 哲也)

■ 一般演題
(アストホール)

▶10:00～10:30 【座長:佐藤 忠】

1 弄舌癖により生じた小児の難治性舌潰瘍の治療経験

桑名市総合医療センター 歯科口腔外科

○杉本 遼介、加藤 英治、加納 慶子、佐竹 貴仁

弄舌癖は、舌先で歯を押ししたり舌先を歯の隙間に挿入したりする口腔習癖の1つである。今回、弄舌癖により難治性となった10歳男児の舌潰瘍の1例を報告する。初診6週間前より右舌尖部に潰瘍を認めた。原因の特定に苦慮したが弄舌癖があることがわかり、指導を行うことで治癒を示した。

2 当科における下顎埋伏智歯抜歯時の末梢神経障害について

伊勢赤十字病院 歯科口腔外科¹⁾三重大学大学院医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野²⁾○金 利映¹⁾、渡部 勇介²⁾、上村 健太郎¹⁾、中村 真之介¹⁾

今回、当科での下顎埋伏智歯の抜歯手術時に生じた末梢神経障害の発症率や継続期間を検討したので報告する。下顎智歯の埋伏状態をパノラマX-PおよびCT画像で確認し、術者の違いや麻酔法など、末梢神経障害発症との関連を過去5年間のカルテで後ろ向きに調査した。

3 生体腎移植患者の口蓋中央部にみられた過剰歯の1例

三重病院 歯科口腔外科

○松村 佳彦、堀 琴雅、金城 優

昨年の本会にて、逆性の正中上顎埋伏過剰歯が口蓋中央部から上顎骨口蓋突起を越え、鼻腔粘膜内に突出した10歳女児の稀な症例について報告を行なった。今回、生体腎移植前の周術期口腔機能管理中の60歳男性に類似の口蓋正中部の埋伏過剰歯を認め、治療する機会を得たので、若干の文献検討を含めて報告する。

▶10:40～11:10 【座長:黒原 一人】

4 上顎歯肉悪性腫瘍術後にインプラント義歯による機能改善を行った1例

済生会松阪総合病院 歯科口腔外科

○菊池 起夫、大倉 正也、密田 正喜仁、前川 礼子、梅田 みさき、野田 のりか、松田 未来、松田 未梨、若林 千草、鈴木 康昭

77歳女性の上顎歯肉癌(cT4aN2bM0 扁平上皮癌)に対し、2019年12月上顎部分切除、右側頸部郭清術、前腕遊離皮弁での再建を施行し、術後2年経過後にインプラント義歯にて機能改善を果たしたので、現在までの経過を報告する。

5 転移性腫瘍が疑われた下唇の膿原性肉芽腫の1例

三重中央医療センター 歯科口腔外科

○柳瀬 成章、若林 宏紀、加納 慶子、乾 眞登可

【緒言】急速に増大し肺腺癌の転移が疑われた膿原性肉芽腫の1例を経験したので報告する。
【症例】72歳、男性。肺腺癌の再発に対してEGFR-TKI(ジオトリフ®)による化学療法中に下唇に腫瘤を生じ増大したため2ヶ月後に当科を受診した。右側下唇に長径14mmの表面不整な腫瘤を認めた。
【処置/経過】肺癌の下唇転移を疑い生検を行ったところ膿原性肉芽腫の診断であった。腫瘍切除術を行い経過良好である。

■ 教育講演
ランチョンセミナー
(グリーンパーク津)

6 当科の口腔がん治療 — 大阪大学における症例との比較

済生会松阪総合病院 歯科口腔外科

○大倉 正也、密田 正喜仁、菊池 起夫、前川 礼子、梅田 みさき、野田 のりか、松田 未来、松田 未梨、若林 千草、鈴木 康昭

2018年7月に済生会松阪総合病院に部長として赴任してから5年経過した。大阪大学に在籍中、口腔腫瘍外来の主任として口腔がん根治症例全例の治療に担ってきた。今回、松阪での58例と大阪での2000年から2017年までの593例を比較検討して報告する。

▶11:20～11:50 【座長:萬好 哲也】

7 再植外傷歯の外部吸収後に同部位に歯の移植を行った1例

医療法人尚志会 林歯科医院

○林 尚史、濱口 桂、森田 寛

外傷により完全脱臼した永久歯はよく再植が試みられるが、保存状態によってその予後はさまざまな経過をたどる。そのため、再植した歯は長期的な予後管理が重要である。今回我々は、外傷により完全脱臼した歯の再植後、外部吸収を引き起こした歯に対して、再度非機能歯の移植を行い、良好な治療経過をたどっている症例を報告する。

8 一般歯科医院における口腔細胞診の活用

カワラダ歯科・口腔外科

○川原田 幸司、加藤 由美子、高木 智子、川原田 みずほ、中村 実菜穂、川原田 美千代、川原田 幸三、諏訪 裕彦、諏訪 若子

一般歯科医院において口腔がんを疑う患者に対して、かかりつけ歯科医が簡便かつ低侵襲の検査法である口腔細胞診を行い、客観的な診断を行うことができれば、患者への動機付けの向上や通院の労力の軽減、不安解消の一助となる。口腔がんを早期に発見するための口腔細胞診の当院での取り組みを紹介する。

9 歯周治療におけるEr:YAGレーザーの応用

医療法人社団 藤田歯科

○藤田 剛

歯周病は、歯周組織に慢性炎症を有する疾患であり、その治療には炎症のコントロールが重要である。近年、歯周治療においてEr:YAGレーザーの応用が広まりつつあるが、まだ詳細について未知の部分が多い。本発表では、Er:YAGレーザーが歯周組織の炎症のコントロールに対して、どのようにアプローチできるかについて考察したい。

▶12:20～13:20 【座長:福森 哲也】

会場:ホテルグリーンパーク津 6F

歯科衛生士と摂食嚥下障害
～特に摂食嚥下訓練について～

講演者

愛知学院大学短期大学部
歯科衛生学科 准教授
相原 喜子 先生

※お弁当の提供について:アストプラザ4F受付にて9:30～整理券を配布します。
予定数に達し次第終了させていただくことを予めご了承ください。

■ 特別講演
(アストホール)

▶ 13:50~14:50 【座長:鈴木 晶博】

会場:アストプラザ4F アストホール

私たちにとっての少子化問題
~三十年後の社会はどうか?~

講演者	株式会社百五総合研究所 シニアアドバイザー 主席研究員 西城 昭二 氏
-----	---

■ 一般演題
(アストホール)

▶ 15:20~16:00 【座長:前田 尚子】

10 地域開業医で口腔機能管理を継続している医療的ケア児の2症例

医療法人HIMAWARI 歯科診療所ひまわり、
ユマニテク医療福祉大学校同窓会 若葉の会

○佐藤 絵美、井上 博

近年、極めて医療依存度の高い超重症児が在宅療養を送るようになってきた。しかし、当地域開業医における医療的ケア児等の障がい児(者)の受け入れは伸び悩んでいる。今回、我々は歯科疾患の予防を目的として医療的ケア児への継続的な口腔機能管理を経験した2症例を報告し、地域開業医の役割について再考する。

11 根本原因に目を向ける小児矯正とは

医療法人YDC 山口歯科医院、三重県立公衆衛生学院同窓会 飛翔会

○出口 愛実

子供の歯並びが悪くなるのはなぜ?日常診療の経験から小児の歯列不正の要因と予防について考え、その予防策が子供の全身の健康にもつながる可能性について考察したい。

12 当院の摂食嚥下・口腔ケアチームにおける歯科衛生士の役割

紀南病院 歯科口腔外科

○糸川 美智子、堀 晃二

歯科衛生士による適切で質の高い専門的口腔ケアは、誤嚥性肺炎予防、摂食・嚥下機能の回復に伴う栄養状態の改善や意識レベルの改善、さらにはADLやQOLの向上に寄与する事が報告されている。今回我々は、当院の看護師を主体とした摂食嚥下・口腔ケアチームにおける歯科衛生士の役割を報告する。

13 口腔内の温度変化が被覆粘膜の血流量に与える影響について

三重大学大学院 医学系研究科 口腔・顎顔面外科学分野

○伊藤 希、清水 香澄、濱田 志、林 美歩、櫻井 理子、新井 直也

化学療法による口腔粘膜炎の予防法に、口腔内を冷却して末梢血管を収縮させるクライオセラピーがある。しかし効果は一定ではなく、実際に毛細血管の収縮が得られているかどうかは不明である。そこで、本研究ではレーザードップラー血流計を用いて冷却や運動などの口腔への負荷が被覆粘膜の血流量に与える影響について検討した。

■ ミニレクチャー
(アストホール)

▶ 16:10~16:30 【座長:新井 直也】

周術期口腔ケアの在りかた —がん患者としての立場から—

伊勢赤十字病院 歯科口腔外科

○野村 城二

私事ではありますが、本年9月、大腸がんと診断を得、伊勢赤十字病院において治療を開始いたしました。治療は抗がん剤(FOLFOXIRI+Bev)による化学療法が主ですが、それに伴って口腔を含めた全身の有害事象の発生を認め、それらの対応に苦慮することもしばしば経験しております。そこで今回は、がん支持療法としてのケアを受ける立場として、がん患者からみた周術期口腔ケアの在りかたについて、介入間隔、評価方法、指導内容等について再考したいと思います。さらに、私自身も粘膜炎予防のため使用し、効果があると思われたセファランチン®含嗽剤についても当院で行った前向き臨床研究の結果と併せて報告いたします。

■ 閉会

▶ 16:30 閉会の辞(佐藤 忠)

Please

●発表者の方々へ

- 発表形式:スライド単写、横スライドのみ、枚数制限なし。
- Microsoft office 365 PowerPoint を用います(Mac使用の方は実行委員会までご連絡ください)。
- 口演時間7分、質疑応答3分、6分経過時にベルを1回、7分でベルを2回鳴らします。
質疑応答につきましても時間厳守をお願いいたします。
- 本大会の抄録は三重医学会雑誌に掲載致します。三重医学会雑誌の投稿規定に沿う必要があるため、500字以内の抄録をこちらのメールアドレス(wdentalmeeting@gmail.com)まで送付してください。
- 事後抄録は、演題番号、演題名、所属、氏名(筆頭演者に○)、抄録内容をWordまたはテキストファイルにて記載してください。

●座長の方々へ

- 時間厳守をお願いします。10分前までに次座長席へお座り下さるよう、よろしくお願いします。

Floor Map

